

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
NO. 41	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田

(1) 将来像 (ビジョン)

「足袋の行田か行田の足袋か」と謳われ、小説・ドラマ『陸王』の舞台にもなった行田市は、最盛期である昭和10年代には年間約8,500万足の足袋を生産した日本一の足袋産地であり、現在も市街地には、足袋産業の発展の象徴である多種多様な足袋蔵が現存している。

また、埼玉県名発祥の地である本市には、東日本最大の規模を誇る特別史跡埼玉古墳群や、小説・映画「のぼうの城」で知られる忍城跡、城下町の総鎮守である八幡神社など、古代から現代に至るまで全国に誇れる多くの地域資源が存在する。

こうした足袋蔵をはじめとした多彩な地域資源を活かした観光まちづくりを進めるため、これまで、各種基礎調査やマーケティングリサーチを実施し、これらに基づいた情報発信や人材育成など様々な取組みを進めたことで、市を訪れる観光客は増加傾向にあったが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少している。

今後は、感染症収束後を見据え、中心市街地の日本遺産構成文化財を含めた歴史的建築物を活かした景観整備や、足袋蔵等の公開・活用を促進し、回遊ルートの強化を図る。また、DMO等との連携による新商品開発や体験型観光開発に取り組むことで、地域としての底上げを図るとともに、国内外への情報発信を強化する。これらに加えて、近隣の他の日本遺産認定地域との連携による広域型観光を推進し、さらなる人の流れを呼び寄せていく。

こうした取組みにより、第6次行田市総合振興計画に掲げた「日本遺産を活用したまちづくり」を市民と行政が対等な立場で協働して進めることで、市民が足袋蔵をはじめとした先人から受け継いだ”まちの財産を守り、まちの文化を育むこと”に誇りを持つ、活力と希望に満ちた「足袋と足袋蔵のまち行田」を目指す。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：郷土博物館の来館者数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025

数値	51,117人	67,780人	集計中	73,000人	77,000人	83,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	行田足袋をはじめとする本市の日本遺産ストーリーを体験できる郷土博物館の来館者数を指標とする。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：日本遺産ストーリーの体験者数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	未実施	50人	59人	62人	65人	70人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	本市の日本遺産の構成文化財の見学及び足袋づくり体験をあわせて行う「日本遺産見学・体験ツアー」等の参加者数を指標とする。なお、目標値については、コロナ禍を踏まえた人数制限を緩和し、徐々に募集人数を増加させていくことを念頭に設定する。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域住民が日本遺産ストーリーを誇りに思う割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	75.2%	70.2%	70.4%	73.0%	75.0%	77.0%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	総合振興計画意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる市民の割合」を目標値とする。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：日本遺産構成文化財での経済活動						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	未実施	39,517,688円	68,800,000円（見込み）	70,864,000円	72,992,500円	75,185,500円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	忍城址を中心としたライトアップ及び花手水のイベントや日本遺産見学・体験ツアー等の入場者・参加者数に消費単価を乗じて経済効果を算出する。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：公開活用がされた構成文化財の割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	17 箇所	17 箇所	17 箇所	17 箇所	17 箇所	18 箇所
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	公開・活用が行われた構成文化財（一時的な公開含む）の箇所数を目標値とする。構成文化財の所有者と公開・活用に向けた交渉を進め、計画期間中に更に 1 箇所の拡充を目指す。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：市内の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	61 万人	128 万人	集計中	133 万人	136 万人	140 万人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	主要観光施設入込客数を目標値とし、コロナ禍におけるマイクロツーリズムの需要も取り込み、増加を見込む。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

①足袋蔵等の活用推進

- ・改めて構成文化財の所有者に足袋蔵等の活用の働きかけを行うとともに、「ふるさとづくり事業」をPRし、金融機関等とも連携して足袋蔵等での起業・活用を推進する。
- ・「足袋蔵コーディネーター」やNPO等の協力を得ながら活用可能な足袋蔵等の内部を整理・整備し、公開イベント等を行って公開していく。それを足掛かりに一般的な起業だけでなく、スモール・ビジネス（プチ起業）の場から時折見学可能なスポットまで多様な形で活用を推進していく。
- ・NPO等の協力を得ながら足袋蔵等活用ためのリノベーションや起業のノウハウについて調査・取りまとめを行い、商工会議所・金融機関等とも連携して具体的な起業支援を行っていく。必要に応じて足袋蔵等活用の人材育成講座の開講も検討・実施する。

②体験型コンテンツ整備等による構成文化財を活用した観光商品化推進（年1件の商品創出実現）

- ・DMO等とも連携し、足袋工場見学&足袋づくり体験、藍染体験、フライ&ゼリーフライづくり体験などの日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや、構成文化財の中で行われるその他の体験型コンテンツを整備・拡充すると共に、観光商品として体系化する。また、体験を指導する人材の育成も引き続き行っていく。
- ・体験型コンテンツを絡めたモデルコースを設定し、ツアー等を実施して、それを参考に体験型コンテンツのパッケージ化、体験型ツアーの観光商品化を推進する。

③足袋と足袋蔵の魅力を、国内外に発信する

- ・DMO等とも連携し、行田の足袋産業の歴史、足袋の製品や製造用具、歴史的資産である足袋蔵等「足袋のまち行田」の魅力を、多様なメディアを通じて国内外に情報発信する。
- ・「足袋蔵と行田市の近代化遺産」のような掲載構成文化財を絞り込んだパンフレットや、個別の構成文化財の解説パンフレットの作成を行い、コアなファンを増加させる。

④足袋蔵のある中心市街地の魅力を創出する

- ・中心市街地に足袋蔵が集中しているため、引き続き地域の住民・商店・企業等と連携を図り、地域資源を活かした魅力あふれるまちづくりを進めるとともに、「行田花手水」やライトアップイベント「希望の光」等のイベントを拡充して、街なかの更なるにぎわいを創出する。
- ・引き続き行田らしい風情漂う景観整備を進める。

⑤足袋産業関連の近代化遺産の調査を進める

- ・足袋の伝統・遺産を活かしたまちづくりを推進するため、引き続き足袋や足袋産業、足袋蔵等の詳細調査及び意向調査を実施し、今後の保存・活用の基礎資料を蓄積していくと共に、その調査成果を日本遺産ストーリー、サブストーリーの充実に活かしていく。

⑥足袋産業の活性化を図る

- ・引き続き海外を含めた足袋の販路拡大の推進や民間主導による新しい足袋の開発、足袋の履き方などのファッションの提案等を行って足袋産業の活性化を図るとともに、経済産業省の認定を受けた伝統的工芸品であることを内外に発信することにより、行田足袋の付加価値向上を図る。

⑦地域の食文化等を活用して地域の魅力を発信する

・「100年フード」にも認定された行田のご当地グルメであるゼリーフライ、フライの食文化としての魅力をさらに高め、来訪者が気軽に味わうことができる環境整備を推進する。また、産業振興を展開するため、引き続き地域資源を活用した特産品や行田ブランドを全国に発信する。

⑧行田市日本遺産推進協議会による日本遺産事業の推進

・地域の活性化や賑わいを創出するために、多様な主体で構成された推進協議会で日本遺産事業全体を統括し、関係者間の連絡・調整を図り、連携体制をより強固なものにする。

⑨インバウンドサービスの更なる充実を図る。

・多言語ポータルサイトやガイドマップの更なる整備・拡充に努めると共に、体験型コンテンツの多言語化等を推進し、外国人が周遊しやすい環境整備を図る。

(4) 実施体制

行田市日本遺産推進協議会の委員及びオブザーバーを委員に一本化した上で、一部の委員メンバー及び事務局によるプロジェクトチームを設置し、このプロジェクトチームが中心となって事業の企画やアイデア出しを行い、事業を実施していく。

行田市日本遺産推進協議会

【委員】

行田商工会議所

南河原商工会

一般社団法人行田おもてなし観光局（認定DMO）

行田市商店会連合会

行田市自治会連合会

行田市文化財保護審議会

東日本旅客鉄道株式会社高崎支社

秩父鉄道株式会社

株式会社武蔵野銀行

埼玉県さきたま史跡の博物館

埼玉県利根地域振興センター

行田市

行田市教育委員会

【オブザーバー】

行田商工会議所青年部

行田青年会議所

ものづくり大学

NPO 法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

NPO 法人魅力創造倶楽部

NPO 法人行田観光物産会

[人材育成・確保の方針]

- ・市内小中高等学校で日本遺産教育を継続的に実施して将来の担い手を育成する。
- ・ものづくり大学や市民大学との連携により、日本遺産構成文化財を保存・活用していくための人材を発掘し、将来的なプロデューサー創出を目指す。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

来年度以降、まずは国等の補助金やふるさと納税の寄付金を活用しながら、DMO等と連携して構成文化財見学・体験ツアー等の観光商品化を進めることで自主財源を確保する“稼げる”体制構築に努める。

その後は協議会の構成団体がそれぞれの事業に日本遺産に関連する要素を取り込んでいき、自走体制を維持することで、日本遺産の魅力向上を図っていく。

構成文化財を活用する各事業者が”稼げる”ようになったら、各事業者から協賛金を徴収し、日本遺産全体のブラッシュ・アップに繋がる構成文化財相互の連携事業等を展開し、その成果を各事業者に還元していく。これをくり返して自立・自走していく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

①構成文化財の詳細調査及び意向調査の実施

- ・ものづくり大学やNPO等の協力を得ながら構成資産の足袋蔵等について、詳細調査及び意向調査を引き続き実施していく。
- ・構成文化財の史跡や古文書等歴史資料についても引き続き調査を続け、その歴史的価値を更に掘り下げると共に、その成果を広く周知していく。

②史跡整備・活用の推進

- ・構成文化財の史跡については、引き続き整備を進め、観光ツアーの新たな立ち寄り地に設定するなど、まちづくりや観光にも積極的に活用していく。
- ・社会科見学のメッカでもある埼玉古墳群を中心に「大人の社会科見学ツアー」等の実施やユニークベニューとなるような活用事業等の実施を埼玉県と検討・実施していく。

③足袋蔵等の活用の推進（再掲）

- ・改めて構成文化財の所有者に足袋蔵等の活用の働きかけを行うとともに、「ふるさとづくり事業」をPRし、金融機関等とも連携して足袋蔵等での起業・活用を推進する。
- ・「足袋蔵コーディネーター」やNPO等の協力を得ながら活用可能な足袋蔵等の内部を整理・整備し、公開イベント等を行って公開していく。それを足掛かりに一般的な起業だけでなく、スモール・ビジネス（プチ起業）の場から時折見学可能なスポットまで多様な形で活用を推進していく。
- ・NPO等の協力を得ながら足袋蔵等活用ためのリノベーションや起業のノウハウについて調査・取りまとめを行い、商工会議所・金融機関等とも連携して具体的な起業支援を行っていく。必要に応じて足袋蔵等活用の人材育成講座の開講も検討・実施する。

④体験型コンテンツの整備等による足袋蔵等の観光商品化の推進（再掲）

- ・DMO等とも連携し、足袋工場見学&足袋づくり体験、藍染体験、フライ&ゼリーフライづくり体験などの日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや、構成文化財の中で行われるその他の体験型コンテンツを整備・拡充すると共に、観光商品として体系化する。また、体験を指導する人材の育成も引き続き行っていく。

- ・ 体験型コンテンツを絡めたモデルコースを設定し、ツアー等を実施して、それを参考に体験型コンテンツのパッケージ化、体験型ツアーの観光商品化を推進する。
- ⑤構成文化財の魅力を、国内外に発信する
- ・ DMO等とも連携し、構成文化財の魅力を、多様なメディアを通じて国内外に情報発信する。
 - ・ 「足袋蔵と行田市の近代化遺産」のような掲載構成文化財を絞り込んだパンフレットや、個別の構成文化財の解説パンフレットの作成を行い、コアなファンを増加させる。
- ⑥活用で得た資金を構成文化財の保存・整備に再投資して構成文化財の魅力を向上する
- ・ 各事業者等が活用で得た資金を活用して、構成文化財の保存や更なる磨き上げに取り組むよう働きかける
 - ・ 構成文化財の魅力向上を更なる事業発展に繋げるアドバイスを行う。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産推進協議会の体制整備		
概要	計画の円滑な実施のため、関係者間の調整を行う組織と事業実施組織の整備・明確化		
	取組名	取組内容	実施主体
①	組織の一本化とプロジェクトチームの設置	委員とオブザーバーに分かれている組織を、委員に一本化し、その下にプロジェクトチームを設置する。委員のメンバーの中の数人と事務局でプロジェクトチームを組織する。	協議会構成団体 行田市
②	プロジェクトチームによる事業の企画・実施	プロジェクトチームがコンテンツ開発やアイデア出し、個別の事業を実施し、協議会は全体の総括を行う。	協議会構成団体 行田市
③	協議会によるプロジェクトチーム事業チェック体制の確立	協議会の会議の際に、プロジェクトチームの行っている事業について報告を受け、これを審議する。	協議会構成団体 行田市
④	鉄道事業者との連携実施	市内の鉄道事業者と連携し、市内構成文化財を活用した誘客に取り組む。	行田市日本遺産推進協議会 鉄道事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	組織体制への行政以外の参加者数		19人
2021			18人
2022			17人
2023	組織体制への行政以外の参加者数		18人
2024	組織体制への行政以外の参加者数		18人
2025	組織体制への行政以外の参加者数		18人
継続に向けた事業設計	プロジェクトチームから逐次コンテンツ開発等の報告を受け、それを基に随時協議会により方向性の確認・修正を行っていく。		

(事業番号 1-B)

事業名	プロジェクトチームの設置		
概要	計画の円滑な実施のため、事業実施組織を編成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロジェクトチームの設置	日本遺産推進協議会の下にプロジェクトチームを設置する。協議会委員のメンバーの中の数人と事務局でプロジェクトチームを組織する。	プロジェクトチーム 行田市
②	協議会とプロジェクトチームとの役割分担の明確化	日本遺産推進協議会が全体の統括を行い、コンテンツ開発等、個別の事業はプロジェクトチームが行う。	プロジェクトチーム 行田市
③	プロジェクトチームの定期的な連絡・調整会議の開催	プロジェクトチーム・メンバーが連携・協力するために、定期的に連絡・調整会議を開催する。	プロジェクトチーム 行田市
④	プロジェクトチームによる事業報告	協議会の会議の際に、プロジェクトチームが事業の進捗状況や成果・結果を報告し、協議会がこれを審議する。	プロジェクトチーム 行田市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	プロジェクトチーム中心で実施した事業数		2
2024	プロジェクトチーム中心で実施した事業数		3
2025	プロジェクトチーム中心で実施した事業数		4
継続に向けた事業設計	街の活性化のためのコンテンツ開発やアイデア出しなど、協議会で行う日本遺産事業はプロジェクトチームが主体となっていく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	文化財保存活用地域計画の策定		
概要	文化財保存活用地域計画に日本遺産を明確に位置づける。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存活用地域計画への日本遺産の位置づけ	文化財保存活用地域計画を策定し、その中に日本遺産を明確に位置づける。	文化財保護課・郷土博物館
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021	文化財保存活用地域計画アンケート回収数		623人/3,000人
2022	文化財保存活用地域計画策定のワークショップ実施回数		2回
2023	文化財保存活用地域計画策定委員会の開催回数		2回
2024	文化財保存活用地域計画の認定		認定達成
2025			
継続に向けた事業設計	文化財保存活用地域計画の中に日本遺産のアクション・プランを盛り込む		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	足袋蔵コーディネーターの会（仮称）設立		
概要	平成30年度に育成した足袋蔵コーディネーターをスキルアップすると共に新規育成も行い、組織化して活動を展開する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋蔵コーディネーターの育成	足袋蔵コーディネーター養成講座を開講する。シルバー観光ガイドや文化財愛護ボランティアなどに参加を広く呼びかける。	文化財保護課
②	足袋蔵コーディネーターの組織化	講座修了者にバッジを進呈し、修了者で足袋蔵コーディネーターの会（仮称）の立ち上げ、会の活動体制を整備する。	文化財保護課
③	足袋蔵コーディネーターの活動実施	地域学習ボランティア、校外学習ボランティアや街なか足袋蔵案内人などとして、足袋蔵等の保存・整備・活用支援活動を実施する。	足袋蔵コーディネーターの会（仮称）
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	足袋蔵コーディネーターの活動回数		5回・7回
2021			4回・10回
2022			5回
2023	足袋蔵コーディネーター養成講座の講座回数		1クール（6回）
2024	学習ボランティアや案内人等としてのガイド数		11回
2025	学習ボランティアや案内人等としてのガイド数		12回
継続に向けた事業設計	定期的に構成文化財や案内板・説明板の（QRコード等の）状況確認等を行うとともに、地域学習ボランティア、校外学習ボランティアや街なか足袋蔵案内人などとして、継続的に活動を展開する。 シルバー観光ボランティアや文化財愛護ボランティアとも協力し、足袋の後世への伝承に向けた取組を行う。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	旧荒井八郎商店事務所兼主屋・大広間棟・洋館の公開・活用推進
概要	国登録有形文化財である旧荒井八郎商店事務所兼主屋・大広間等・洋館を取得し、公開・活用を進めることで街なかのにぎわい創出を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	旧荒井八郎商店事務所等敷地及び建物の取得	所有者から土地及び建物の取得を進める。	文化財保護課
②	建物の補修・公開・活用	取得した建物の損傷状況を確認するとともに、公開に向けて必要な補修を行い、一般公開を行い活用していく。	文化財保護課
③	施設内での展示	日本遺産についての展示を行うと共にリーフレット等の配布を行い、来館者にストーリーを深く理解してもらう。	文化財保護課
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	(設定なし)	
2021		
2022		
2023	施設の公開日数	50日
2024	施設の公開日数	100日
2025	施設の公開日数	200日

継続に向けた事業設計	土地開発基金等により土地及び建物を取得し、地元の大学等に補修箇所の確認をしてもらい、補修を実施する。補修後は日本遺産に関するパネル展示やリーフレットの配架を行う。
------------	---

(事業番号4-B)

事業名		足袋蔵等の公開・活用推進	
概要		モデルコースを活用し、改良していくためのコンテンツ開発を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財へのQRコードの設置等、VR映像等の制作	内部を見ることのできない構成文化財にQRコードを設置し、構成文化財ごとに制作したVR映像等とリンクさせる。	文化財保護課 プロジェクトチーム
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1件・1件
2021			2件・1件
2022			1件
2023	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1件
2024	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1件
2025	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1件
継続に向けた事業設計	足袋蔵カード等、周遊の元になるツールをGPSでデジタルコレクションできる環境を整備し、構成文化財ごとにVR映像等の周遊特典のようなアドバンテージを付与することでモデルコースへの集客力を増強する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	体験型コンテンツの整備・観光商品化		
概要	日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや、構成文化財の中で行われるその他の体験型コンテンツを整備・パッケージ化し、組み合わせて販売することで相乗効果を生み出し、より魅力のある観光商品を作成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	体験型コンテンツをパッケージ化したモデルコースの設定	日本遺産に関連した体験型コンテンツ(藍染、足袋の仕上げ体験等)の掘り起し、整備等を行い、ツアーとパッケージすることにより、内容をさらに充実させ、魅力のあるツアーを企画する。	文化財保護課・商工観光課・おもてなし観光局
②	体験型コンテンツを絡めたツアーの開催(販売)	体験型コンテンツを絡めたツアーを開催(販売)する。	おもてなし観光局
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	体験型コンテンツの整備数		3
2024	モデルコースの設定数		3
2025	ツアーの開催数		2
継続に向けた事業設計	体験型コンテンツ(藍染、足袋の仕上げ体験等)の掘り起しや整備等を実施し、ツアーとパッケージ化することで相乗効果を生み出すとともにツアー内容について充実させ、市内周遊観光を推進することにより、リピーターを増やしていく。		

(事業番号5-B)

事業名		スタンプラリー開催	
概要		モデルコースを活用し、改良していくためのコンテンツ開発を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	スタンプラリー等の開催	各構成文化財所有者に協力してもらい、建物ごとにスタンプポイントを設置して回遊性向上を図る。他の周遊性のあるイベントとも協力する。	文化財保護課
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	イベント参加者数		300人
2024	イベント参加者数		400人
2025	イベント参加者数		500人
継続に向けた事業設計	スタンプラリー等、構成文化財の回遊を促す事業を継続的に行うことで、観光客の誘客につなげる。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	市内小中学校での郷土学習の充実		
概要	市内小中学校を対象に、マイ足袋づくり体験や日本遺産巡回展示、日本遺産足袋の学習などの郷土学習を実施し、児童・生徒の日本遺産や地域への理解、連帯感や郷土愛を深める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	マイ足袋づくり体験	小中学校の児童を対象に、足袋事業者等とも協力してマイ足袋づくりの体験をすることで地域への理解、連帯感や郷土愛を深め、文化や技術の後世への伝承を担う人材を育む。	教育指導課
②	日本遺産巡回展示の実施	市内小中学校を対象に、1校につき2週間程度、足袋関連資料や写真パネル等の展示を行うと共に、地域の特性に合わせた内容(展示物)の追加を行う。児童や先生からのアンケート調査をもとに、改良を重ねていく。	文化財保護課・教育指導課
③	社会科等の授業を通じた日本遺産足袋の学習(小学校3年生)	社会科副読本を通して日本遺産足袋について学習し、製造工程や足袋の歴史を学ぶ。特に、日本遺産として行田の足袋が位置づけられた点についてしっかり学習する。また、郷土博物館へ見学するなどして、伝統文化を見て触れて学んでいく。	教育指導課
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産巡回展示の実施校数		0校
2021			4校
2022			14校
2023	郷土学習の実施回数		10回
2024	郷土学習の実施回数		12回
2025	郷土学習の実施回数		15回
継続に向けた事業設計	同じ世代全員に継続的にマイ足袋づくり体験や巡回展示、郷土博物館での学習などを体験してもらうことにより、地域への理解、連帯感や郷土愛を深めるとともに、故郷に還ってきてもらい、文化や技術を後世に伝承していく人材を育てていく。		

(事業番号 6-B)

事業名	足袋検定の実施		
概要	行田の足袋や足袋産業の歴史などについての知識や、足袋産業の特徴とその理由について考えてもらう内容の検定等を実施することにより、普及啓発を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋検定の実施	郷土博物館の来館者を対象に行田の足袋や足袋産業の歴史などについての知識や、足袋産業の特徴とその理由について考えてもらう内容の検定等を実施する。	郷土博物館
②	体験学習イベントと足袋検定の同時開催	郷土博物館の体験学習イベントにあわせて、足袋検定を同時開催する。また、他の催しでも PR を行うなどして参加を呼びかける。	郷土博物館
③	足袋検定の PR 活動	来館者の目に留まりやすい館内掲示の工夫や、インターネット・SNS 等を活用したさらなる PR を行い、足袋検定の認知度を高め、参加を促進する。	郷土博物館
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	行田足袋の歴史に関心を持つ人数（足袋検定の受検者数）		中止
2021			中止
2022			500 人
2023	行田足袋の歴史に関心を持つ人数（足袋検定の受検者数）		800 人
2024	行田足袋の歴史に関心を持つ人数（足袋検定の受検者数）		900 人
2025	行田足袋の歴史に関心を持つ人数（足袋検定の受検者数）		1,000 人
継続に向けた事業設計	定期的・継続的に足袋検定を実施していく。		

(事業番号6-C)

事業名	構成文化財を活用した普及事業の実施		
概要	郷土博物館が所蔵する構成文化財について講座等で取り扱い、行田足袋の歴史や日本遺産ストーリーの普及啓発を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	古文書講座の実施	郷土博物館が所蔵する構成文化財のうち、足袋産業関係の文書資料をテキストとして古文書読解の講座を実施する。	郷土博物館
②	足袋ラベル資料の活用	郷土博物館が所蔵する足袋ラベルの資料をデザイン化し体験学習教材としての活用を図る。	郷土博物館
③			
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	講座の参加者		32人
2022			31人
2023	講座の参加者		33人
2024	講座の参加者		35人
2025	講座の参加者		37人
継続に向けた事業設計	講師は博物館学芸員が担当。定期的・継続的に講座を開催していく。		

(事業番号6-D)

事業名		足袋をはいて博物館へ	
概要		郷土博物館の入館に際して足袋着用者に特典を設けるなど、足袋の着用を促進するキャンペーンを行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋を着用した入館者に対する記念品贈呈	足袋を着用した入館者に記念品を贈呈する。記念品は足袋の歴史や日本遺産に関するものを用意する。	郷土博物館
②	フォトスポットの設置	行田足袋をモチーフに取り入れた期間限定フォトスポットを郷土博物館内に設け、入館者に利用・発信してもらう。	郷土博物館
③			
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	フォトスポット利用者数		—
2022			150人
2023	フォトスポット利用者数		200人
2024	フォトスポット利用者数		250人
2025	フォトスポット利用者数		300人
継続に向けた事業設計	積極的な広報活動と、記念品やフォトスポットの工夫を継続して行う。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	ウェブサイトやSNS、PR動画等による情報発信体制の整備と継続的な情報発信
概要	関係部局等が持つ情報の一元管理体制を確立し、関係間連携による継続した情報発信を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信体制の整備と継続的情報発信	日本遺産の情報提供フォーマットを作成し、関係部局に周知するとともに、文化財保護課がそれらの情報を集約し、おもてなし観光局と連携して同局が運営するウェブサイトやSNS、市HPでこまめに情報を発信する。	文化財保護課・おもてなし観光局
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	SNSでの情報発信に対するいいねの数	1,279・3,000
2021		1,279・3,000
2022		1,279・3,000
2023	おもてなし観光局ページビュー	153万
2024	おもてなし観光局ページビュー	156万
2025	おもてなし観光局ページビュー	160万

継続に向けた事業設計	情報提供フォーマットに加えて定期的に情報収集も行い、タイムリーな情報発信ができるようにする。
------------	--

(事業番号7-B)

事業名	日本遺産講座・ぎょうだ足袋蔵アカデミー等の実施		
概要	市民に対して、日本遺産としての「足袋と足袋蔵」に関する講義形式の講座や、構成文化財に関する参加・発言型の勉強会（ぎょうだ足袋蔵アカデミー）を開催し、故郷としての誇り、日本遺産に対する理解と愛着を深め、街づくりへの参画意識を高揚する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産講座等の開講	日本遺産講座（仮称）を開講し、受講者に日本遺産に対する理解と興味を深めていただく。	文化財保護課
②	ぎょうだ足袋蔵アカデミー等の実施	構成文化財ごとの成り立ちや現状について学ぶとともに、活用方法のアイデア出しをしてもらうなどの参加・発言型の勉強会（ぎょうだ足袋蔵アカデミー・仮称）を実施し、構成文化財の保存・活用を自分事にしてもらう。	文化財保護課 プロジェクトチーム
③			
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数		540人・200人
2021			1,137人・250人
2022			・300人
2023	講座・アカデミー等の参加者数		30人
2024	講座・アカデミー等の参加者数		40人
2025	講座・アカデミー等の参加者数		50人
継続に向けた事業設計	定期的に日本遺産講座（仮称）を開講し、参加者アンケートを記入してもらうことでぎょうだ足袋蔵アカデミー（仮称）への参加を呼びかける。また、アカデミーの資料とするため、構成文化財についての現状を随時把握していく。		

(事業番号7-C)

事業名		足袋蔵カードの作成	
概要		足袋蔵ごとに特徴を記したカードを作成し、回遊性の向上を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋蔵カードの作成	構成文化財の足袋蔵について、建物ごとにその特徴や背景、ステータスを記載したカードを作成する。	文化財保護課
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1件・1件
2021			2件・1件
2022			1件
2023	カード作成		作成
2024	カード配布数		100枚
2025	カード配布数		200枚
継続に向けた事業設計	足袋蔵カードの作成・配布を通してモデルコースへの集客力を増強する。		